

第1回府中町単独自治調査研究審議会 議事録

- 日 時 令和8年5月19日（火） 14:00～16:00
- 場 所 府中町役場 本庁5階 第1委員会室
- 出席委員 石田委員、上之園委員、梶川委員、小濱委員、坂本委員、宍戸委員、篠永委員、鈴木委員、竹中委員、田村委員、内藤委員、二宮委員、花田委員、益村委員、門前委員、山本委員、米田委員
- 欠席委員 大東委員
- オブザーバー 広島県 地域政策局 市町行財政課 細川主査（代理出席）
- 町出席者 寺尾町長、桑原副町長
- 事務局 谷口総務企画部長、藤永政策企画課長、西山政策企画課課長補佐、浅田主査
- 内 容
 1. 開会
 2. 町長あいさつ
 3. 出席者の紹介
 4. 審議会について
 5. 会長及び副会長の互選
 6. 諮問書の交付
 7. 資料説明・意見交換等
 8. 事務連絡
 9. 閉会
- 配付資料
 - 【資料1】 配席表
 - 【資料2】 府中町単独自治調査研究審議会委員名簿
 - 【資料3】 府中町単独自治調査研究審議会設置規則
 - 【資料4】 諮問書（写）
 - 【資料5】 単独自治体としての在り方の検討について
 - 【資料6】 第1回府中町単独自治調査研究審議会資料
 - 【参考資料1】 他自治体への視察について
 - 【参考資料2】 自治制度調査研究特別委員会における質問・意見等について
 - 【参考資料3】 住民説明会資料
 - 【参考資料4】 住民説明会パンフレット

●概要

1. 開会

2. 町長あいさつ

3. 出席者の紹介

4. 審議会について

事務局から審議会についての説明。

5. 会長及び副会長の互選

会長として、上之園委員を選任。

副会長として、大東委員を選任。

6. 諮問書の交付

寺尾町長から上之園会長へ諮問書を交付。

7. 資料説明・意見交換等

資料5, 6に基づき、事務局から説明

(花田委員)

参考資料2について、「資料が具体的でなく分かりにくい」との記載があるが、今回の資料に反映されているのか。

(事務局)

参考資料3～4については、自治制度調査研究特別委員会にも提示した資料であり、メリットやデメリットが漠然として分かりにくいとの指摘を受けたため、具体的に記載するなどの反映を行っている。

(花田委員)

参考資料3の「課題に対する取組」について、市制施行が人口減少対策につながるとしているが、話が飛躍しており納得感が無い。企業誘致にあたり企業から「町だから進出しない」と言われたなど、具体的な事例があるのか。

(事務局)

県外から来た人からは、「府中町がこれほど都市であるとは思わなかった」と言

われることが多い。これはプラスの意味と捉えることもできるが、逆に名前のイメージと合っていないとも考えられる。市になることが直ちに人口減少対策に結びつくわけではないが、様々な取組の一環としてプラスの方向に働くようになればと考えている。

（花田委員）

そういった所を見えるようにしないと、単に行政の感想としか住民は思わない。“こういった不都合があり、そのために何をやりたい”といった所を明確にしないと、なぜやる必要があるのか分からないという話になる。資料を読んだが、必要性が理解できなかったのも、そういった所を補足しないと厳しいと思う。

（鈴木委員）

これまで市への移行を検討したことはあるのか。

（事務局）

これまで検討を行うことはあったが、広島市との合併の議論や、県条例への適合の課題などがあり、実現しなかったということはある。

（鈴木委員）

その際に住民への説明はあったのか。

（事務局）

合併の議論があった際に、市制施行に関する説明会を住民向けに行っている。

（町長）

当時は第3次総合計画を作成した時期であり、単独市制を目指すということで住民説明会を行っていたが、国による平成の大合併と時期が重なったことから、合併を議論すべきといった話が出てきた。それにより、「合併・単独市制・町のまま」の3択で住民投票を行うことになり、合併が49.9%、それ以外が50.1%という結果になった。その後、合併に否定的な町長が就任し、合併の議論は終わったが、そのような経過があり、単独市制については議論が止まってしまったということがある。

それから20年が経過し、広島市も合併ではなく都市圏で連携して振興を図る方針となっており、府中町もその圏域の中で特色を出していこうということで、市制施行を検討しているものである。

決してこれまで何もしてこなかったというわけではなく、時期がずれ込んできた

ということである。

(田村委員)

今回の件について、合併するのかとよく聞かれる。住民の中には合併すると思っている人が多いので、住民説明会ではこの点を説明するようにしていただきたい。

また、資料6の36ページに、移譲事務として墓地等の経営許可とあるが、市になることで火葬場やごみ処理場、その他施設を新しく設置する必要はあるのか。また、あるのならば費用の算出はしているのか。

(事務局)

ごみ処理場などは、安芸郡4町で設置している安芸地区衛生管理組合での取り決めにより行っており、市になっても新たに設置する必要は無いと考えている。

また、その他にも、市になることで新たな施設の設置が必要になることは無いと考えている。

(副町長)

安芸郡4町で行っている一部事務組合については、市であっても加わることはできる。資料6の36ページに行政サービスの記載があるが、混乱が無いように、市になっても変わらないこととして表記したいと考えている。

(梶川委員)

住所表記については、昔は県外の家族に手紙を書く際に、「広島市外府中町」や「広島局区内府中町」など書くこともあった。府中町は周りの都市とも違う歴史があり、そこにプライドもあるので、名前については、安芸と付くものが良いと多くの人が思うのではないか。

(小濱委員)

資料6の17ページで「住民サービスの向上につながる」とあるが、具体的に何があるのか。

(事務局)

資料6の17ページは他自治体の事例であり、行政サービスの拡充として福祉事務所の設置があるが、府中町では設置済みのため、それほど大きな変化は無い。

一方で、資料6の36ページにあるように、墓地の経営許可などいくつかの事務については移譲を受けることになる。直接的に関係する住民は少ないかもしれないが、サービスの向上にはつながるものであると考えている。

(町長)

先日の特別委員会の資料では、県議会議員の選挙区や、選挙期間などが変わることを記載していた。メリットとは違うということで今回の資料には記載していないが、制度としての違いはある。

(二宮委員)

住民アンケートとあるが、住民投票ではなくアンケートとした理由は何か。

(事務局)

まず、合併とは異なり、市制施行は自治体の枠組み自体が変わるわけではないので、住民投票は馴染まないと考えていることがある。また、調査を行った自治体は全てアンケート調査により住民意向の把握を行っており、それらの事例を踏まえて検討したということがある。

(益村委員)

地域の発展と人口減少対策が目指すところであると思うが、全国的に人口減少の中、非常に難しいと思う。住民がどう捉えるかが重要であるが、住民は「今の町の住み心地は良い」と言っており、良いものを変えるのであれば、戦略的な発信をしなければ理解は得られないのではないかな。住民にとっては、住み心地がどう変わるのかが一番の関心事であり、情報がないと判断が難しいので、そこを深掘りすることが重要であると思う。これについては、あるべき姿に向けた戦略や指標が無いと、そこに向かっていくことは難しいので、そのあたりを明確にして戦略的に発信をしていくことが重要である。

一例として、市制施行にあたり交付金が出るのであれば、このタイミングで最先端のスマートシティを目指すなど、プラスに捉えられるような在るべき姿を描けるのであれば、より伝わるのではないかな。

また、今回の審議会是非常にメディアの注目を集めているが、情報発信は町にとって重要である。どういったストーリーを作っていくかが戦略の中にあれば良いのではないかな。

(町長)

本日は多くのメディアの方が来ており、非常に注目を集めている。

町としては、他にも向洋駅周辺区画整理事業や、都市公園における再整備事業を進めており、特に都市公園の再整備はクラウドファンディングも呼びかけていきたいと考えているため、そちらも注目を集めていくよう、メディアへの情報提供を行

っていきたい。

(石田委員)

資料6の30ページにメリット・デメリットとあり、市になると将来的な地域の発展につながるよう書いてあるが、話に飛躍があると感じる。その間には、例えば市になることで市長会に加入し、イベント開催など自治体間の連携が広がることで、発展につながっていくなどの流れがあるのではないか。他の自治体の事例も加えつつ、一般の方に分かりやすい説明があれば良いと思う。

また、同世代には子育て世代が多いが、「府中町がこんなに愛されているのに、なぜ市になるのか」といった声をよく聞く。府中町という名前がブランドになっており、それを捨てて市になるのはハードルが高いのではないか。市制施行によるプラスの効果や、手続きが少ないことをアピールすることで、幅広い世代に届くのではないかと思う。

(山本委員)

行政としては町よりも市になった方が良いという考えであろうし、また、今回は合併でなく単独ということで抵抗は感じていない。先ほどの説明で、住民投票ではなくアンケートを行うとあったが、メリットやデメリットが明確でないと住民への説明が難しいのではないかと思う。

(花田委員)

イメージやブランド力などとあるが具体的でなく漠然としている。逆に、市になれるのに敢えて町でいる方が、ブランド力がアップするかもしれない。

ストーリーとして、市になることでどのような目指す姿になるのかということをも具体化して明示しなければ、何故やる必要があるのかが見えない。個人的には市になる必要は無い、日本一の町の方が発信できるのではないかと思う。

“これまでこういう課題があったが、これを解決するために市になって行政のプレゼンスを高める必要がある”といったストーリーが必要になると思うので、そこは練った方が良いと思う。

(町長)

府中町は平成2年に5万人を超えているが、日本一の町といっても、東京へ陳情に行く場合など、なかなか知名度がない状況である。また、過去には滝沢村が人口日本一の村をブランドとしていたが、結果的には市に移行したということもある。

市になってみないと分からないところはあるが、やはり自治体のランクとしては、市・町・村の順であり、町と市では新聞などで扱いが違うことがある。例えば、1

月に成人式があったが、他の市は写真入りで掲載されている一方、府中町は参加人数しか書かれていないこともあった。これは、マスコミ関係の議員にも聞いたが、市の方が人口、つまりは読者が多い地域として大きく扱うよう、内部での取り決めがあるとのことである。

そういった部分もあるので、まずは市になってみようという考えである。府中町も人口が減少傾向であり、将来に向けて何か手を打ちたい、子どもたちなど将来の町民のためにできることをやっていきたいという思いである。

（花田委員）

今言われたそのままの表現で良いと思う。資料の表現は何かごまかして書いているように見えるので、“プレゼンスを高めることで、住民にも恩恵が受けられる”ことを表現すれば良いのではないか。

町長がこれまで、町であるためにプレゼンスが無い、これだけの人口や都市機能があるのに軽視されていると感じているのであれば、それについての町長の思いをストレートに書いた方が住民は納得すると思う。

（上之園会長）

皆様の意見を聞いて、府中町を大切に思っていることは共通であると思う。

市になるとイメージが上がることや、デメリットは無いという説明はあったが、具体的な内容はどうかということはあると思う。デメリットが全く無いというよりは、少しのデメリットがあっても、まちが良くなるイメージを示すことができれば良いのではないか。

今回の議論を踏まえ、最終回までに審議を通して結論を取りまとめていきたいと考えている。

事務局も質問に回答しているが、さらに詳しい説明があるのであれば、第2回の審議会でお願ひできればと思う。

（篠永委員）

最初は町のままで良いと思っていたが、色々な意見を聞いて、単独市のことも考えなければいけないと思うようになった。

アンケートについても、住民説明会に行けない人もいると思うので、住民一人ひとりの意見が反映されるような方法など、考えないといけないことはあると思う。

府中町民で府中町が嫌いな人はいないと思うので、そういった人たちの意見が反映されるように、事務局も考えていただきたい。

(上之園会長)

府中町を大事に思う気持ちは皆同じなので、多数決で一部の意見を切り捨てるのではなく、皆が納得する形で決めていきたい。第3回までにある程度の方向性をまとめていきたいと考えており、次回はより具体的に議論を進めていければと思うので、事務局でも整理していただき、不十分な点があれば第2回の審議会で説明をしていただければと思う。

また、委員の皆様におかれては、所属する団体などで意見があれば、取りまとめてご提示いただければと思う。

(梶川委員)

最後に、ぜひ県の方から感想を。

(オブザーバー)

府中町に愛着がある方が多いということが印象に残った。愛着が強いということで、市になるとどう変わるのか非常に関心が高いのだろうと思う。

市になると変わることで、一般的には、福祉事務所の設置が義務付けられるため福祉系の給付が身近になることと、都市計画区域が設定されるようになるため計画的なまちづくりができやすくなることもあるが、府中町は福祉事務所を設置済みであり、都市計画区域も既に全域が設定されている。そういった経緯もあって、これまで人口日本一の町に発展を遂げてきたのだろうと思っている。

8. 事務連絡

9. 閉会